



- ふくい“的”な“適”応で暮らしをもっと豊かに -

FUKUTEKI



渾水時の柵谷ダム（南越前町）

水不足に備える

気候変動が進むことで、渇水の発生頻度の増加や規模の拡大が懸念されています
渇水の発生状況と、それを防ぐための福井県の取組みを紹介します

気候変動が進むと渇水が起こる？

気候変動が進むと、雨が多く降る時期と少ない時期、雨が集中して降る場所と少ない場所の差など、「時期的・空間的なバラつきが大きくなる」と言われています。

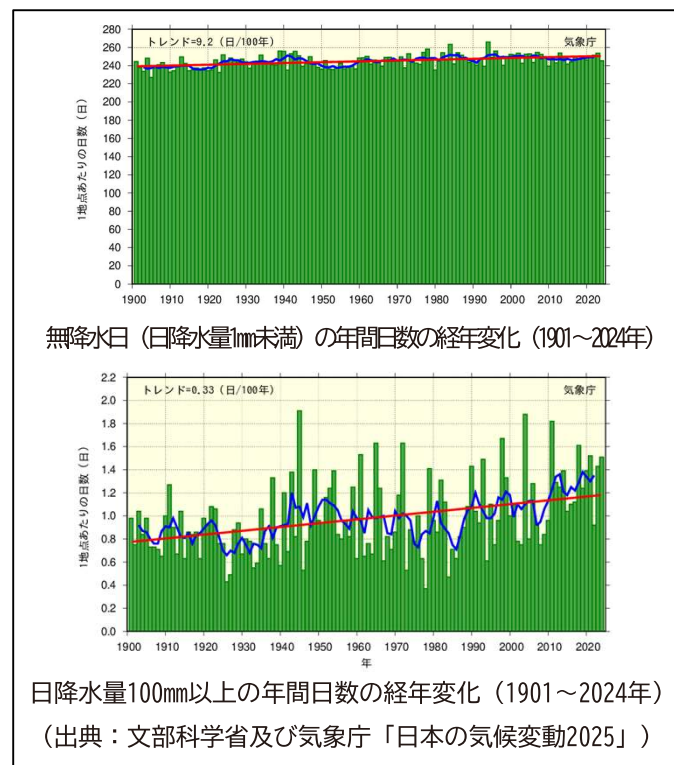
日本の気候変動2025（文部科学省、気象庁）の解析結果によると、過去約100年間で、無降水日（日降水量が1mm未満の日）は約9.2日増加しました。一方で、日降水量が100mm以上となる大雨の日も約0.33日増えており、今後もこの傾向はさらに強まると予想されています。

これまで本紙では、雨が多い場合の適応策として輪中堤（7号）や田んぼダム、ハザードマップや防災訓練（いずれも第3号）といった県内の取り組みを紹介しました。今回は、逆に雨が少ない場合に起こる渇水への適応策についてお届けします。

渇水の発生状況

渇水は、冬の少雪や夏の少雨・猛暑などの条件が重なることで発生します。国土交通省の報告では、令和元年以降、全国各地で毎年、渇水が発生しています。特に、令和7年夏の渇水では、当県の「九頭竜川水系日野川・榊谷川」を含む、27水系35河川で渇水体制がとられました。

令和7年7月23日には、福井県で3年ぶりに「福井県渇水対応マニュアル」に基づく初期警戒体制が敷かれま



した（同年10月14日解除）。関係機関による情報共有や対応の検討が行われましたが、一部地域では、農業用水の取水制限や番水・反復水利用などの措置が必要となり、農作物への被害も生じました。

さらに、今年も8月24日に初期警戒体制に移行し、引き続き渇水に注意が必要な状況となっています。（8/31時点）

水不足への適応策

県では、渇水リスクに備え、河川やダム等のインフラ整備を進めるとともに、ダム貯水量等の観測・管理を行っています。また、渇水発生時に迅速な対策がとれるよう、情報収集や関係機関との連絡体制を整備しています。

さらに、農作物被害を防止するため、市町や土地改良区等が実施する干害対策に必要な費用等の助成等も実施しています。



一方、ご家庭でできる身近な適応策は、「節水」です。限りある水資源を有効に活用することが、気候変動の大事な適応に繋がります。

- ・お風呂や歯磨き：
水を出しっぱなしにせず、こまめに止める。
- ・食器洗い：
油污を拭きとってから洗う。ため洗いする。



令和8年8月28日から的大雨により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。
1日も早い復旧・復興をお祈りいたします。



気候変動と水質悪化

気候変動は、湖や河川等の水質にも影響を及ぼすおそれがあります

気候変動で水質が悪化するメカニズム

気候変動による水温上昇や、降水量・降水パターンの変化は、湖沼やダム貯水池、河川等の水質にも影響を及ぼすと考えられています。

・プランクトン等の増殖：

水温上昇により、植物プランクトンや藻類等の増殖が促進されます。その結果、水の濁りや水中の酸素量（溶存酸素量）の低下が生じ、水質の悪化に繋がります。

・強雨による土砂流入：

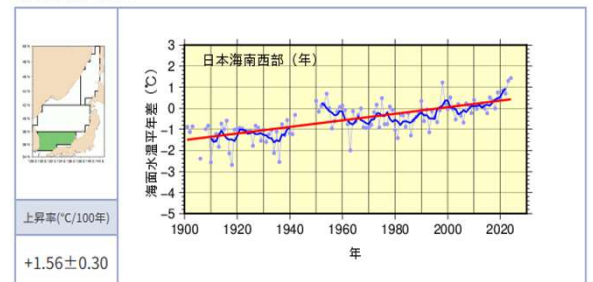
短時間に集中した強雨が降ると、周囲の山や川から大量の土砂が流れ込みます。これにより水が濁るだけでなく、土砂に含まれる窒素、リン等の栄養塩類がプランクトン等の増殖を促し、さらなる水質悪化を引き起こします。

・貧酸素化の進行：

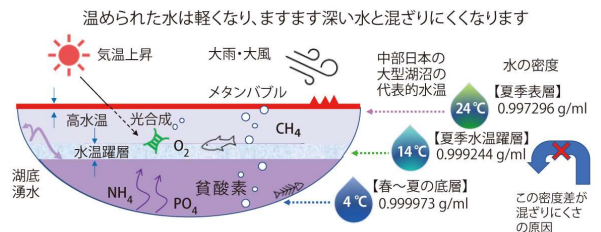
気温上昇に伴う水温の上昇などにより、湖沼やダム貯水池等の閉鎖性水域では水が上下に混ざりにくい状態（成層）が強まります。その結果、水面から取り込まれた酸素が底層まで供給されず、貧酸素状態が生じます。

さらに、底層から栄養塩類が溶出し、水質のさらなる悪化を招くおそれもあります。

統計期間 1901～2024年



日本海南西部の海域平均海面水温（年平均）の変化（出展：気象庁HP）



湖沼底層の貧酸素化との概略図（出展：A-PLAT）

【取組紹介】汽水湖の水質動態に関する研究（福井県衛生環境研究センター）

福井県を代表する汽水湖である三方五湖で、水の流れと水質を調査する研究が進められています。

<研究概要>

・多点多深度で観測：

湖内の状況をより詳しく把握するため、船で各定点を移動し、流量センサーで水の流れを観測します。併せて、各地点で採水を行い、水温や塩分、溶存酸素量等を測定します。

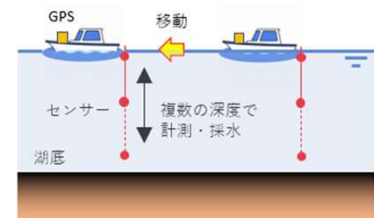
・3次元解析による流向把握：

センサーで取得した流量データと採水した水の測定結果をもとに、パソコン上で立体的な3次元データにして解析します。

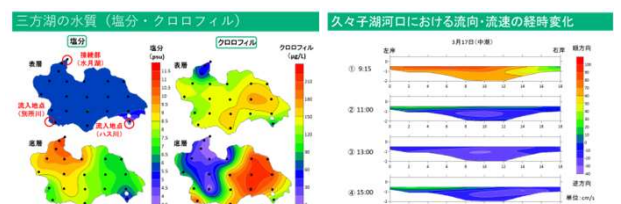
<成果>

これにより、湖の中の水がどのように動いているかを立体的に把握することができます。

こうした情報は、水質悪化が生じたときの早期の原因究明やその後の対策に役立てられます。



多点多深度での水質測定



湖内水質偏重の可視化と動態予測

三方五湖は淡水、汽水、海水が混ざり合う独自の生態系を持つ、ラムサール条約湿地にも登録されている貴重な湖沼です。



未来を地図で見る「将来予測WebGIS」

国立環境研究所が運営するWebサイト「A-PLAT(気候変動適応情報プラットフォーム)」は、気候変動に関する最新の科学的データや、適応の具体例が分かりやすく発信されています。

今回は、数あるコンテンツの中から、「気候変動の将来予測WebGIS」をご紹介します。



気候変動の将来予測WebGIS(ウェブ地理情報システム)は、私たちが暮らす地域の「未来の気候やリスク」を地図上で視覚的に確認できる無料ツールです。

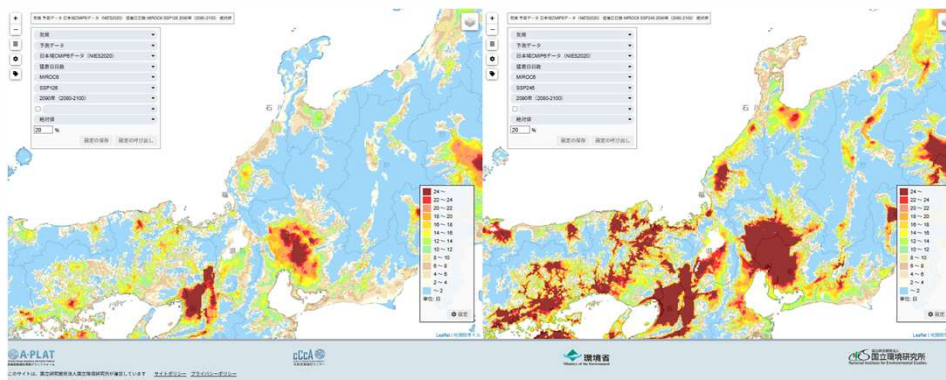
一例として、同ツールを使って作成した、2090年頃の「猛暑日の年間日数」の予想データをお示します。

左側は、温暖化対策が順調に進み、気温上昇を2℃未満に抑えられた未来(社会経済シナリオSSP1-2.6)、右側は一定の対策を取りつつ中道的な発展を遂げた未来

(SSP2-4.5)の予測です。猛暑日の日数がどのように変わるのかが直感的に御理解いただけるかと思います。

WebGISはこの他にも、コメの収量や品質の変化、熱中症で救急搬送される人の増加予測など、私たちの生活に直結するメニューが豊富に用意されています。

ぜひこの機会に、A-PLATのWebGISに触れてみてください。地域の未来を知ることが、私たちの暮らしを守る行動の第一歩につながります。

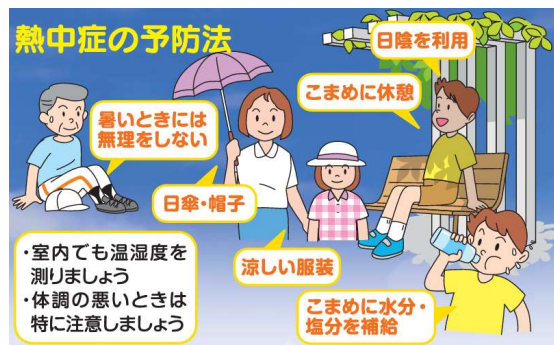


2090年頃の暑日日数の将来予測(気候変動の将来予測WebGISで作成)

引き続き、熱中症にご注意ください

環境省および気象庁の発表によると、福井県では今年、熱中症警戒アラートがすでに14回発表(8/31時点)されており、全国でも延べ938回発表されるなど、熱中症への警戒が続いています。

熱中症は屋外だけでなく、室内でも発生します。こまめな水分・塩分補給や、適切なエアコンの使用が大切です。暑さを避けるため、市町が指定するクーリングシェルターの活用や、冷房の効いた施設で休憩することも有効です。残暑はまだ続きます。自分自身はもちろん、ご家族や周囲の方にも声を掛け合いながら、熱中症予防を徹底しましょう。



(出典：環境省 熱中症予防サイト)



をダウンロードしていますすぐデコ活を始めよう!



Android



AppStore

福井県気候変動適応センター
福井県庁10階 環境政策課

〒910-8580 福井市大手3丁目17番1号
TEL 0776-20-0301 メール kanky@pref.fukui.lg.jp